

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 9月 9日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471502983		
法人名	有限会社 ピュア・ハート		
事業所名	グループホーム春里		
所在地	広島県福山市新市町戸手657番地1 (電話) 0847-51-5665		
自己評価作成日	令和4年8月4日	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	<a href="https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502983-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search">https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=3471502983-00&amp;ServiceCd=320&amp;Type=search</a>
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和4年8月25日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な雰囲気大切に、安心して過ごして頂けるようにしています。一人一人を大切に、尊厳の有る声掛けを心がけています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

開設より20年以上が経過し日常の関りや地域行事への参加など様々な取り組みから地域との繋がりをもち、地元地域や近隣近所の職員が多く地域の情報も自然と集まり関りを築いていることで相互の関係性が形成された運営が行われている。事業所は家庭的な雰囲気を重要視しており、一人ひとりに尊厳を持ち、寄り添う支援に尽力し「ゆったり一緒に楽しく」をモットーに和やかに安心して過ごせる家庭的な居場所作りを実現し事業所理念を体現している。コロナ禍であり外出など制限が多く継続される中、利用者の年代別に合わせた内容のかるたを一緒に作成し昔の話に花を咲かせながら楽しんだり、利用者の希望にドライブを行うことや食べたいものを買ってきて食事やおやつに取り入れたり喜びが増える取り組みに着目し、日々の生活に深みの増す支援を実践している。

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	1	○理念の共有と実践  地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。	ホームに掲示している理念を、出勤時に確認している。	ホーム玄関、フロアに掲示し職員それぞれが確認する他、適宜管理者より促しを行うことや年二回の個人面談などで理念の確認を行い周知や理解を深め日々の支援に向き合っている。「ゆったり、一緒に楽しく」をモットーに笑いや笑顔のある生活を意識し実践に取り組んでいる。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい  利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナの為、地域の溝掃除には参加したがそれ以外は交流が出来ていない。(入居者の徘徊時には、地域の顔馴染みとして、声かけや時にはお茶を飲ませてもらったり、職員での対応が困難な際は、ホームまでの送迎など協力して頂いている。)	地元地域の職員が多く、職員から地域の情報が日常的に集まり共有している。近隣との付き合いも長く顔なじみであり、声掛けや協力が得られる関係性ができている。コロナ禍で地域活動自粛が継続の中、以前は神輿や敬老会、小学校との交流、公民館の福祉祭りへ参加など様々であった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献  事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	入居者の徘徊時に、近隣の方に認知症の方への対応方法（親戚に認知症の方がいる）についての相談を受け、わかる範囲での助言を行った。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	ホームだよりに現状報告を記載し家族へお知らせしている。(今年はコロナの為、会議が出来ていない)	現在は感染症対策のため会議開催は控えているが、通常は併設する小規模多機能型居宅介護と合同にて開催し、家族をはじめ民生委員や地域住民、地域包括支援センター職員の参加にて活発な意見交換が行われていた。開催都度勉強会を予定し、家族会と合同開催など工夫を凝らし行っている。	コロナ禍情勢下において会議が開催できない現状に各関係者との連絡が行えていない状況があります。事前照会など意見を確認できる取組みなど実施し、開催ができない中でも情報共有や意見交換をされる取組みを行っていくことを期待します。
5	4	○市町との連携  市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	支所や地域包括支援センターへは、書類の提出時や入居相談時等に、ホームの様子を報告している。	支所へは介護認定更新申請時、事故報告書や運営推進会議議事録を持参し日常的な関りを築いている。地域包括支援センターからも研修の案内があり参加することや利用相談があるなど適宜連携を図っている。生活保護の利用者への支援も生活課と日々協力し行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては、資料を回覧し職員に周知している。日常での言葉（声かけ）や態度で気になる点があれば、その都度、リーダー及び職員間で注意し合って改善に努めている。	現在、車いすベルト装着が1例あるが、経過の話し合いを重ね検討しながら「身体拘束をしない」必要性を職員間で考え利用者に寄り添い支援している。定期的な勉強会や日常のケアの中でリスクを検討し都度気付きを職員同士話をするこゝの徹底や振り返りを繰り返し実践している。	日頃からの事案や研修内容、委員会などを記録にしっかり残すことの意識を強めていくことで取り組みを振り返る機会となり、職員の意識を高め資質の向上に繋がっていくことを期待します。
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については資料を回覧し職員に周知している。職員個人のファイル内に虐待・拘束の勉強に携わる事は用意しており、見返す事が容易なようにしてある。防止にも努めている。	/	
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護、成年後見制度については、資料を回覧している。	/	
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容の把握が困難であった場合、内容とは別に要約したものも使用し、理解促進や納得いただけるような働きかけをしている。又後日でも不明な事があれば尋ねて頂ける様伝えている。	/	
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や来所時に利用者家族の意見・要望を聞いて、日常のケアに活かすようにしている。（今年もコロナで面会時も短時間での接触のため、直接顔を合わせて話す機会が少なかった）	家族にはプラン作成時や来所時、電話連絡などで話を聞いている。面会が難しい状況下での家族の会いたい希望にリモート面会を検討し進めている。利用者からも日々の中で思いを把握し、喫茶店をされていた方にはその店からテイクアウトをして自分でドリップをしてもらった例がある。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の面談以外にも、その都度、個人毎に聞いたり提案してもらっている。またそれを実施に向け取り組んでいる。	思いや意見が上げやすい職場風土があり、日々の業務内や申し送り時などに話をしたりと思いついたらすぐに提案ができ、職員からの意見に柔軟に検討がなされている。休憩時間の見直しや一人用テーブルやソファでくつろげるようにと職員の意見で購入に繋がった例がある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談は基より、職員の態度や表情等に変化がある時は、随時声掛けや話を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じて研修参加の推奨や必要と思われる研修への支援、希望する研修への参加支援等行っている。又、勤務内での育成講習も随時行っている。 (介護技術、声掛け等) (今年は出来ていない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ZOOMでの研修会や勉強会等を通じ各種向上を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談や家族・ケアマネジャー・サマリーからの情報を基に、入居後も関わりながら情報を得て、安心して生活して頂ける様努めている。 入居されてからも、様子・状態をスタッフ間で情報交換し、不明な点等家族に確認し、出来るだけ早く新しい生活に慣れて頂くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	契約時に改めて要望を聞き、こちらからも、わからない部分は、質問し、意見交換を行い、より良いケアが出来る様努めている。開始後も、その都度、要望を聞きこちらわからない部分は、日頃の様子を伝え、意見交換し、より良いケアが出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム希望があった場合でも、必要か否かを見て、他事業所や他サービスを勧めたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	家族の様に話をしたり、入居者から分からないこと等、人生経験を通しての指導をしてもらったり等の交流が出来る。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	帰宅願望のある入居者には段階を見極め、本人と家族の間に入り話し合いの場を持ったり、差し入れや必要時の受診付添い対応感染症流行時には電話での会話をお願いしている。(その人の性格や生活歴を関係者で共有)		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人(地域の知り合い、昔からの知人)へも本人の様子を伝えている。	利用開始時に利用者の生活背景など情報の周知と理解に努め、個人の馴染みを繋げられる支援を行っている。コロナ禍以前は家族協力を得てお盆や正月にも自宅に帰っていた。現在も自宅付近をドライブしたり家族との連絡の取次ぎ、年賀状の代筆支援など行っている。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共通の楽しみから、会話して頂いたり、入居者同士のコミュニケーションが難しい場合、各々の性格・相性・得意・不得意分野を把握し、スタッフが間に入り、良好な関係が築ける様努めている。また、席の配置もその都度、検討している。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホーム退去後も気軽に来て頂ける様な関係を保っている。また、新たな入居者のご紹介もして頂くこともある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向の把握に努めており、希望を交えた本人の思いにその都度検討している。本人からの意思が全く聞けない（疾病等により）場合には家族への相談を行い、本人が望むであろう事も検討している。	生活歴など個々のバックグラウンドを振り返り一人ひとり理解を深めている。日々の寄り添った関りから利用者の声に耳を傾け、思いや意向を確認している。入浴時も1対1の関りから深く思いを聞ける機会としている。洋裁学校に行っていた方に手作業やパッチワークを検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前に話を伺う以外に、入居後も本人・家族との会話で、バックグラウンド作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ユニット職員内で問題やその人の状態・現状を把握し、アセスメント表やカンファレンス、申し送り（連絡ノート・個人ノート）をケアマネジメントに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の希望や状態、現状を把握し、家族の訪問時・電話等で意向を聞いている。モニタリングや前回のプランの評価をもとにカンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p>	<p>本人や家族の意向をもとに、申し送り時や業務内で話を行う他、職員からの情報を踏まえ計画作成担当者が立案し全員で確認しながら作成している。モニタリングやケアプランの実施評価も反映させ検討している。主治医の意見も往診時に確認し必要に併せプランに反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録・申し送りノートは基より、本人の個別ノートで疾病や薬の変更等記載し見直し時に活用できるようにしている。</p>	/	
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>急な入居受け入れなどにも、対応している。</p>	/	
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防署の方には避難訓練などで指導を頂いている。また、本人の意向により地域での外食(馴染みの喫茶店テイクアウト)を行なっている。(今年もほぼ出来ない)</p>	/	
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>必要時のかかりつけ医以外の受診対応や往診対応等、家族・かかりつけ医・看護師と話し合い、その都度その方に必要な支援をしている。本人の精神的な面で、かかりつけ医が2か所ある方もいる。</p>	<p>希望により利用開始前の主治医を選択することもできるが、ほとんどの方は協力医を主治医として変更しており、2週間毎に往診を受けている。歯科の往診や専門科への受診も必要に応じて支援が行われており、適切に安心して医療が受けられる体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>看護職員や協力医療機関の看護師に随時相談しながらその時適した健康管理や医療への支援を行っている。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入退院時の連携はもちろんの事、情報交換や相談等も随時行っている。(新規入居の受け入れ問い合わせも多い)</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始時にアンケートを取り、説明している。重度化した場合は、家族から希望を細かく伺い、家族の同意書・了解のもとプランに盛り込み、主治医・全職員で支援に取り組んでいる。</p>	<p>利用開始時に緊急時、終末期の対応に関する事前確認書を交わしており、緊急時対応等のアンケートにて意向を確認している。重度化した場合や医療が必要な状態になった時には状態に応じ適切に関係機関に繋げている。毎年勉強会を実施し、看取りも状況に応じ勉強会を行っている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>応急手当・心肺蘇生・AED使用等定期的に勉強会を行ない訓練している。(今年はできていない)</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>出火場所を変えたり、日勤帯、夜勤帯と想定時間を変え、年2回の避難訓練を行っている。(水害についての垂直避難訓練を実施した)</p>	<p>年2回避難訓練を実施しており、内1回は消防署の立ち会いのもとに行っている。災害別にマニュアルを整備しており、緊急連絡体制等も事務所に掲示し誰でも連絡が行える体制を構築している。事業所は水害が想定される地域であり、昨年度は水害を想定した垂直避難訓練を実施した。</p>	<p>有事の際を想定した備蓄の状況に不安があります。又、地域との協力体制も不十分さが伺えることで今後災害面での相互の協力体制の確認や構築をしっかりと確立していくことでより一層の有事の備えとなるように期待します。</p>



自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛け等はプライバシーが保てるよう各職員が留意している。個人情報の取り扱いについても同じくである。	羞恥心やプライバシーを常に意識し個人の尊厳を守る取り組みを実践している。申し送り時は声の音量に配慮し利用者を居室番号に置き換え伝達を行うことや排泄時に車椅子使用時などで扉が閉めれない時はつい立を立てるなどの工夫がある。書類関係も施錠できる棚に保管をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話ができる方に関しては、思いや希望を出せるよう働きかけ、自己決定の支援をしている。会話、意思疎通が難しい方に関しては、家族と協力して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	介護度の違いにより、できること・できないことなどの差があるが、起床、臥床、食事、家事手伝、レクリエーション行事等をその人のペースや心身状態に合せ、希望にそって支援している。(また、不満が出る場合には、その都度、理解して頂けるよう説明をしている)		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみやおしゃれは支援している(化粧品の補充、毛染めの予約など)。本人が望めば希望の理容・美容院へ行く支援が出来る。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	おやつ作りや食べもの行事など、出来る範囲での手伝いは行ってもらっている。好み等も把握し提供している。種類のあるケーキ、ドーナツ、アイスなど選択できるものは、選んでもらっている(現在は、コロナなど衛生面での管理が更に重要な時期なので、職員で行っている。)	外部委託で調理した食材を湯煎で温め、ご飯と汁物は作り提供している。毎月数回季節のものを献立し手作りの調理を行い、季節感を感じられる食事の提供となっている。コロナ禍以前は外食も行っていたが現在は控えており、その分お好み焼きを焼いたり利用者への喜びに繋げている。	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>食事量と血液検査結果等の把握により、食事量の少ない方には栄養補助飲料の提供、水分確保の為、3回/日の水分摂取(食事時外)を施行して、水分拒否のある方は、その方の気分に合わせ、容器の工夫や配分及び飲み物の種類の変更などで対応している。(糖尿病の方への対応又、拒否や身体状況によって水分が少ない時は、協力医の点滴にて随時対応している。食事も同様。)</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>口腔状態や本人の力量に応じ用具も使用し支援している。状態に応じ歯科医の往診による口腔ケアをしている。専門的な治療が必要な場合は、家族と相談し、治療につなげている。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>各入居者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導・パット交換を行っている。その際、自尊心を損なわないように配慮している。</p>	<p>排泄の記録を介護日誌に記入し個別の状況を把握しており、排泄パターンを個々に理解し対応に努めている。トイレに座ることを基本とし座位が難しい方にも介助方法を工夫して行う他、紙パンツから布パンツへの移行など取り組み尊厳ある排泄の自立支援を実践している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>原因や影響等理解できており対応の為の飲食物(ヨーグルト・オリゴ糖・牛乳など)、体を動かすこととなるべく下剤に頼らない方向に変更する努力、その他の工夫を行っている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>週2回の午前入浴となっている。利用者の希望や体調によって、個別に柔軟に対応している。入浴を拒む方には、声掛け、浴室内の小物を工夫したり、タイミングを見ながら支援し、清潔保持に努めている。</p>	<p>週2回、午前中に入浴を行うことを基本としているが、入りたくない時には無理強いせず、気分が落ち着かない利用者にお風呂を勧め好んで入られたりと柔軟な対応で一人ひとりの状況に合わせた入浴を支援している。入浴のできない時には足浴にて体を温め気分をほぐしている。</p>	

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<b>○安眠や休息の支援</b>  一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	就寝時間は本人の意思を尊重す るが、その時の状況に応じ安眠 できるよう支援している。 休息はその人のペースや身体状 態に応じた支援をしている。午 後からの臥床も取り入れ気分転 換も行っている。		
47		<b>○服薬支援</b>  一人ひとりを使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	服薬支援（服薬拒否も含む）と 症状変化の確認に努めており、 薬の目的・効能等、薬ケースに 貼付し、理解しやすいように している。		
48		<b>○役割、楽しみごとの支援</b>  張り合いや喜びのある日々を過 ぎせるように、一人ひとりの生 活歴や力を活かした役割、嗜好 品、楽しみごと、気分転換等の 支援をしている。	家族にも生活歴や好きだったこ と等尋ねながらその人に合った 役割を支援している。 レクリエーションや行事等で気 分転換の支援をしている。		
49	18	<b>○日常的な外出支援</b>  一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう 支援に努めている。また、普段 は行けないような場所でも、本 人の希望を把握し、家族や地 域の人々と協力しながら出か けられるように支援している。	誕生日、気分転換にできる範 囲で好きな物をテイクアウト を行っている。	コロナ禍以前は外食や外出行事 も行い、バラ園を散策し季節ご とにきれいな花を見に行ったり 動物園に行きお弁当を食べたり と非日常を楽しみ、家族が連れ て出ること多かつた。現在自 粛中、駐車場の散歩や利用者 個々の希望にできるだけ応え られるようにドライブを行って いる。	
50		<b>○お金の所持や使うことの支援</b>  職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるように 支援している。	お金を持っている方もおられる が、持っていない方も、立替で 買い物出来る様支援している。		

自己評価	外部評価	項目( 1F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	できる方は、自ら電話をしたり、家族からの電話で話しをされたりしている。手紙の返信は難しいが、手紙を本人に渡し、そのときは、居室など個人のスペースで読んで頂き、喜ばれている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面や各居室入り口に季節の飾り付けや行事の写真、入居者の作品等展示し、生活感溢れた居心地良い雰囲気作りに努めている。リビング照明は場所ごとに点灯するので光の強度を落とすことも出来る。	リビングではソファでゆったりくつろげ、壁面には季節に応じ作品や行事の飾り付け、写真の展示が施され利用者が毎日張り替えるカレンダーなど季節や日常の移ろいが十分に感じられるよう配慮している。1階のテラスでおやつを食べたり、居室入口も分かりやすいように飾っている方もいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	天気の良い日にはデッキにて日向ぼっこやフロアには座りやすいソファがあり、共用スペースでゆっくり出来るよう工夫したり、気分転換に違う階に行ったり等、過しやすい工夫をしている。また、安否確認をしながら各々の居室で自由に昼寝、テレビ(私物)を観て過ごしたりなるべく束縛のないよう対応している。また、転倒予防のソファを置いて、なるべく自由に動ける工夫もしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、家族より持ち寄られた写真、日常の生活の中で見られた笑顔の写真・真剣にものごとに組み立てる写真等を貼ったり・テレビ等々がリラックスできる空間づくりをしている。	自宅にいる時の雰囲気で暮らしてもらえるように、配置などレイアウトも自宅に合わせ行い、それぞれに馴染みのものや愛着のこもったものなど何でも持参できることを伝えている。テレビをはじめパッチワーク作品やペットの写真、鏡台など自由に持参でき落ち着ける環境を整えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	707-の壁に今月の行事や、カレンダー、季節の壁面等掲示し、季節感を味わってもらっている。トイレには、分かりやすいよう札を貼り、入居前のインテーク時などでお会いしたときに感じた印象から個人の表札を作成し、居室入口に自分で確認できるよう掲示している。		

V アウトカム項目( 1F ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	<p>○理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践に近づけている。</p>	ホームに掲示している理念を、出勤時に確認している。		
2	2	<p>○事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。</p>	コロナの為、地域の溝掃除には参加したがそれ以外は行事も中止になり交流が出来ていない。		
3		<p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。</p>	入居者の徘徊時に、近隣の方に認知症の方への対応方法（親戚に認知症の方がいる）についての相談を受け、わかる範囲での助言を行った。		
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実績、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。</p>	ホームだよりに現状報告を記載し家族へお知らせしている。（今年はコロナの為、会議が出来ていない）		
5	4	<p>○市町との連携</p> <p>市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。</p>	支所や包括へは、書類の提出時や入居相談時等に、ホームの様子を報告している。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<b>○身体拘束をしないケアの実践</b> 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束をしないケアについては、資料を回覧し職員に周知している。日常での言葉（声かけ）や態度で気になる点があれば、その都度、リーダー及び職員間で注意し合って改善に努めています。		
7		<b>○虐待の防止の徹底</b> 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止については資料を回覧し職員に周知している。職員個人のファイル内に虐待・拘束の勉強に携わる事は用意しており、見返す事が容易なようにしてある。防止にも努めている。		
8		<b>○権利擁護に関する制度の理解と活用</b> 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	権利擁護、成年後見制度については、資料を回覧している。		
9		<b>○契約に関する説明と納得</b> 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約内容の把握が困難であった場合、内容とは別に要約したものも使用し、理解促進や納得いただけるような働きかけをしている。又後日でも不明な事があれば尋ねて頂ける様伝えている。		
10	6	<b>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</b> 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	電話や来所時に利用者さん家族の意見・要望を聞いて、日常のケアに活かすようにしている。（今年もコロナで面会時も短時間での接触のため、直接顔を合わせて話す機会が少なかった）		



自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	年2回の面談以外にも、個人毎に聞いたり提案してもらっている。またそれを実施に向け取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談は基より、職員の態度や表情等に変化ある時は、随時声掛けや話を聞く機会を設けている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	段階に応じた研修参加の推奨や必要と思われる研修への支援、希望する研修への参加支援等行なっている。又、勤務内での育成講習も随時行なっている。(介護技術、声掛け等) (今年は出来ていない)		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	ZOOMでの研修会や勉強会等を通じ各種向上を図っている。		
<b>II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前面談や家族・ケアマネージャー・サマリーからの情報を基に、入居後も関わりながら情報を得て、安心して生活して頂ける様努めている。 入居されてからも、様子・状態をスタッフ間で情報交換し、不明な点等ご家族に確認し、出来るだけ早く新しい生活に慣れて頂くよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係  サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	その都度、要望を聞きこちらもわからない部分は、日頃の様子を伝え、意見交換し、より良いケアが出来る様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援  サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	グループホーム希望があった場合でも、必要か否かを見て、他事業所や他サービスを勧めたりしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係  職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	帰宅願望のある入居者には段階を見極め、本人と家族の間に入り話し合いの場を持ったり、差し入れや必要時の受診付添い対応感染症流行時には電話での会話をお願いしている。(その人の性格や生活歴を関係者で共有)		
19		○本人を共に支えあう家族との関係  職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	各入居者の家族の来所、比較的多く、親子での交流、会話をよくされたり、受診等、家族側から積極的に協力して頂いている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援  本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	馴染みの人(地域の知り合い、昔からの知人)へも本人の様子を伝えている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援  利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	共通の楽しみから、会話して頂いたり、入居者同士のコミュニケーションが難しい場合、各々の性格・相性を把握し、スタッフが間に入り、良好な関係が築ける様努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み  サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	ホーム退去後も気軽に来て頂ける様な関係を保っている。また、新たな入居者様のご紹介もして頂くこともある。		
<b>Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	9	○思いや意向の把握  一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	意向の把握に努めており、希望を交えた本人さんの思いにその都度検討している。本人さんからの意思が全く聞けない（疾病等により）場合には家族さんへの相談を行い、本人さんが望むであろう事も検討している。		
24		○これまでの暮らしの把握  一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	事前に話を伺う以外に、入居後も本人さん・家族さんとの会話で、バックグラウンド作りを行っている。		
25		○暮らしの現状の把握  一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	ユニット職員内で問題やその人の状態・現状を把握し、アセスメント表やカンファレンス、申し送り（連絡ノート・個人ノート）でケアマネジメントに活かしている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>本人の希望や状態、現状を把握し、家族の訪問時・電話等で意向を聞いている。 モニタリングや前回のプランの評価をもとにカンファレンスを行い、介護計画を作成している。</p>		
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>介護記録は基より、本人さんの個別ノートで疾病や薬の変更等記載し見直し時に活用できるようにしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>急な入居受入れなどにも、対応している。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>消防署の方には避難訓練などで指導を頂いている。また、本人の意向により地域での外食（馴染みの喫茶店テイクアウト）を行なっている。（今年もほぼ出来ない）</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>必要時のかかりつけ医以外の受診対応や往診対応等、家族・かかりつけ医・看護師と話し合い、その都度その方に必要な支援をしている。</p>		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<b>○看護職員との協働</b> 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護職員や協力医療機関の看護師に随時相談しながらその時適した健康管理や医療への支援を行なっている。		
32		<b>○入退院時の医療機関との協働</b> 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の連携はもちろんの事、情報交換や相談等も随時行っている。(新規入居の受け入れ問合わせも多い)		
33	12	<b>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</b> 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	利用開始時にアンケートを取り、説明している。重度化した場合は、家族から希望を細かく伺い、家族の同意書・了解のもとプランに盛り込み、主治医・全職員で支援に取り組んでいる。		
34		<b>○急変や事故発生時の備え</b> 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当・心肺蘇生・AED使用等勉強会に参加している。(今年はまだできていない)		
35	13	<b>○災害対策</b> 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	出火場所を変えたり、日勤帯、夜勤帯と想定時間を変え、年2回の避難訓練を行っている。(水害についての垂直避難訓練を実施した)		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保  一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	声掛け等はプライバシーが保てるよう各職員が留意している。個人情報の取り扱いについても同じくである。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援  日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	話ができる方に関しては、思いや希望を出せるよう働きかけ、自己決定の支援をしている。話が出来ない方に関しては、家族さんと協力して支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし  職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	起床、臥床、食事、家事手伝、レクリエーション行事等をその人のペースや心身状態に合せ、希望にそって支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援  その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	身だしなみやおしゃれは支援している。本人が望めば希望の理容・美容院へ行く支援が出来る。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援  食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	出来る方には、行事としておやつ作りを手伝ってもらっている。好み等も把握し提供している。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援  食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分確保の為、3回/日の水分摂取(食事時外)を施行して、水分拒否のある方は、その方の気分に合わせ、容器の工夫や配分及び飲み物の種類の変更などで対応している。又、拒否や身体状況によって水分が少ない時は、協力医の点滴にて随時対応している。食事も同様。		
42		○口腔内の清潔保持  口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	口腔状態や本人さんの力量に応じ用具も使用し支援している。状態に応じ歯科医の往診による口腔ケアをしている。(現在、往診4名)専門的な治療が必要な場合は、ご家族と相談し、治療につなげている。		
43	16	○排泄の自立支援  排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	各入居者の排泄パターンを把握して、トイレ誘導・パット交換を行っている。その際、自尊心を損なわないように配慮している。		
44		○便秘の予防と対応  便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	原因や影響等理解できており対応の為の飲食物(ヨーグルト・牛乳など)、体を動かすこととなるべく下剤に頼らない方向に変更する努力、その他の工夫を行なっている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援  一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。	週2回の午前入浴となっている。利用者の希望や体調によって、個別に柔軟に対応している。入浴を拒む方には、声掛け、浴室内の小物を工夫したり、タイミングを見ながら支援し、清潔保持に努めている。		

自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。</p>	<p>就寝時間は本人の意思を尊重する が、その時の状況に応じ安眠でき るよう支援している。 休息はその人のペースや身体状態 に応じた支援をしている。午後から の臥床も取り入れ気分転換も行っ ている。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりを使用している薬の目的 や副作用、用法や用量について理 解しており、服薬の支援と症状の変 化の確認に努めている。</p>	<p>服薬支援（服薬拒否も含む）と症 状変化の確認に勤めており、薬の 目的・効能等、一覧にし理解しや すいようにしている。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過 ごせるように、一人ひとりの生活 歴や力を活かした役割、嗜好品、 楽しみごと、気分転換等の支援を している。</p>	<p>家族さんにも生活歴や好きだっ たこと等尋ねながらその人に合 った役割を支援している。 レクリエーションや行事等で気 分転換の支援をしている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそ って、戸外に出かけられるよう支 援に努めている。また、普段は行 けないような場所でも、本人の希 望を把握し、家族や地域の人々と 協力しながら出かけられるよう に支援している。</p>	<p>誕生日、気分転換にできる範囲 で好きな物をテイクアウトを行っ ている。</p>		
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの 大切さを理解しており、一人ひと りの希望や力に応じて、お金を所 持したり使えるように支援してい る。</p>	<p>お金を持っている方もおられる が、持っていない場合でも、立替 で買い物ができるよう支援してい る。</p>		



自己評価	外部評価	項目( 2F )	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の( )内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援  家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	できる方は、自ら電話をしたり、ご家族からの電話で話しをされたり、スタッフの支援により、家族に年賀状を送ったりしている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	壁面や各居室入り口に季節の飾り付けや行事の写真、入居者さんの作品等展示し、生活感溢れた居心地良い雰囲気作りに努めている。リビング照明は場所ごとに点灯するので光の強度を落とすことも出来る。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	天気の良い日にはデッキにて日向ほっこやフロアーには座りやすいソファがあり、共用スペースでゆっくり出来るよう工夫したり、気分転換に違う階に行ったり等過ししやすい工夫をしている。また、安否確認をしながら各々の居室で自由に昼寝、テレビ（私物）を観て過ごしたりなるべく束縛のないよう対応している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮  居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	各居室には、思い出の写真やイスやテーブルを置きリラックスできる空間づくりをしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり  建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	フロアの壁に今月の行事や、カレンダー、季節の壁面等掲示し、季節感を味わってもらっている。		

V アウトカム項目( 2F ) ← 左記( )内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム春里

作成日 令和4年10月5日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	4	コロナを理由に運営推進会議が開催できていない	情報共有や意見の収集を図る	包括や地域及び家族へホームより現状報告やアンケートを送る	3月以内
2	6	身体拘束に対する記録が不十分	身体拘束への職員の意識を高める	日頃よりこまめに記録を取る	3月以内
3	35	備蓄が不十分	災害に対する意識を高める	5日分の備蓄(食糧・ケットコンロ等の必要物品)を確保する	3月以内
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。